

「東海村の環境と原子力安全について提言する会」参加者アンケート結果

本調査は、「提言する会」の運営について参加者の意見を把握するため、2003 年 9 月上旬に依頼し、回答を得たものである。この時点での「提言する会」の参加者数は 10 名であったが、うち 1 名は都合により会合へ出席したことがなかったため、少なくとも 1 回以上会合に参加した 9 名を対象に調査を行った。5 名から回答を得た結果を以下に示す。

1. いつから「提言する会」に参加していっぱいますか？（○は 1 つ）
 - 1 平成 15 年 4 月から（3 名）
 - 2 平成 15 年 8 月から（2 名：ただし 7 月会合より）
 - 3 平成 15 年 10 月から（0 名）
 - 4 平成 15 年 12 月から（0 名）

2. 「提言する会」に参加するきっかけは何でしたか？（○はいくつでも）
 - 1 平成 15 年 1 月のアンケート回答者だったから（1 名）
 - 2 村内に配布された募集チラシを見て（1 名）
 - 3 他の「提言する会」のメンバーに誘われたから（1 名）
 - 4 ニュースレターを見て（1 名）
 - 5 新聞記事を見て（0 名）
 - 6 村の広報誌「広報とうかい」を見て（1 名）
 - 7 その他（1 名）

3. 「提言する会」に参加しようと思われた理由は何ですか？（○はいくつでも）
 - 1 面白そうだったから（0 名）
 - 2 村や原子力事業者に伝えたいことがあったから（2 名）
 - 3 リスクについて勉強したいと思ったから（2 名）
 - 4 何か村の役に立ちたいと思っていたから（4 名）
 - 5 その他（0 名）
 - 6 特に理由はない（0 名）

参加された頃のことを思い出しながらお答えください。

4. C³ プロジェクトの内容は最初からわかりましたか？（○は 1 つ）
 - 1 最初からよくわかった（1 名）
 - 2 最初はよくわからなかったが、今はわかっている（3 名）
 - 3 今もあまりよくわからない（1 名）

5. 「提言する会」の内容は最初からわかりましたか？（○は1つ）

- 1 最初からよくわかった（1名）
- 2 最初はよくわからなかったが、今はわかっている（2名）
- 3 今もあまりよくわからない（1名）
- 無回答（1名）

6. 事務局の対応（日程調整，連絡，記録の取り方など）はどうでしたか？（○は1つ）

- 1 全く満足していない（1名）
- 2 あまり満足していない（0名）
- 3 どちらともいえない（0名）
- 4 まあ満足（2名）
- 5 とても満足（2名）

現在の「提言する会」に対するお考えをおたずねします。

7. 「提言する会」は月1回会合を行っていますが、この開催の頻度は適切ですか？（○は1つ）

- 1 多い（0名）
- 2 少ない（0名）
- 3 ちょうどよい（5名）

8. 「提言する会」の議論の中で、あなたは十分発言できていると感じていらっしゃいますか？（○は1つ）

- 1 全く発言できていない（0名）
- 2 あまり発言できていない（1名）
- 3 どちらともいえない（0名）
- 4 まあ発言できている（3名）
- 5 十分発言できている（1名）

9. 「提言する会」の議論の内容について、どのように感じていらっしゃいますか？（○は1つ）

- 1 全く満足していない（0名）
- 2 あまり満足していない（1名）
- 3 どちらともいえない（1名）
- 4 まあ満足（2名）
- 5 とても満足（1名）

10.プロジェクトメンバーに対して、現在、どのように感じていらっしゃいますか？
(○は1つ)

- 1 全く信頼できない(0名)
- 2 あまり信頼できない(0名)
- 3 どちらともいえない(2名)
- 4 まあ信頼できる(3名)
- 5 とても信頼できる(0名)

プロジェクトの進め方や事務局の運営方法、提言する会での議論の仕方などについてご意見があれば、ご自由にお書きください。

- ・ 勉強させていただきます。
- ・ ミーティングでもお願いしていますが、この会の名称のごとく、この活動結果は何らかの形で行政当局(村)に提言し、採択すべきと村が判断したものはどんどん採用していく方向に働きかけを強めていきたい。事務局側もその方向に頑張って戴きたい。
- ・ 現在の進め方でよいと思います。まだ2～3回しか出席していないため、わからない点もあります。

難しい議論になった時は事務局がリードして下さい。そうでないと発散するおそれがあります。

また、1人の人ばかりに話させるのではなく、皆に話させるようリード願います。(今迄はうまくいっていると思いますが)

議論は要点をホワイトボードに書いて下さい。(7/2のやり方と同じように)まとめは必ず書いて確認して下さい。

- ・ C³ プロジェクトの目的に係わるキーワードとして、東海村・環境・原子力安全・村への提言・リスクコミュニケーションなどがある。本プロジェクトが多目的なのは分かるが、モルモット役の参加メンバーである私は、いささか混乱させられる。原子力安全に係わる村の姿勢について批判すると、主催者の一人である村の職員は逃げ腰になってしまう。原子力事故に対応する支援者育成プログラムを提案すると、リスクコミュニケーション活動とは違う、と主催者側は云う。大規模事故に話が及ぶと、参加メンバーの中から、寝た子を起こすな、事故はおきないと信じたい、という発言が聞こえてくる。いったい何がC³プロジェクトの期待される成果なのだろうか。それを主催者側が明示してくれれば、回り道をしなくても済むものを、と思うのだが。
- ・ 市民参加のプロジェクトで主体性があって参加している者にとっては、活動に意義を見いだせます。けれど、東京に引き上げられたあと、Back Upする行政がないのは、ちょっと心もとない思いです。C³に行政側から参加、サポート、継続して下さると良いと思います。議事録が送られてくるので、各個人の特色がよく解ります。